様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２８ 年　 ６ 月　 ６ 日現在

機関番号：１３１０３
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2013～2015
課題番号：２５３８１１７５

研究課題名（和文）中学校社会科歴史的分野における世界史内容に関する歴史的研究

研究課題名（英文）Historical Research on the World History Education in the History Field of Social Studies at Junior High Schools in Japan

研究代表者
茨木　智志（IBARAKI, Satoshi）

上越教育大学・学校教育研究科（研究院）・教授

研究者番号：３０３２４０２３

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　1,600,000円

研究成果の概要（和文）：　本研究は日本の中学校社会科歴史的分野における世界史内容が持つ問題点を歴史的に解明することを目的とする。その結果、日本史として始まった中学校社会科の歴史教育は、歴史的分野の成立時に日本史と世界史を分けない歴史教育を目指して取り組まれ、当時の教師たちを中心としてあらゆる検討が進められたこと、しかし、1970年代以後に次第に歴史的分野は事実上において日本史を内容とするようになってしまって現在に至ること、その最大の要因は世界史内容が歴史の中で背景と位置づけられたことにあったこと、などを具体的に示した。そして、歴史教育とは何か、世界史の無い歴史教育とは何かという問題を提起した。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this research is to clarify historically the problems that the world history contents in the history field of social studies at Japanese junior high schools have. The significance of the history field established in 1955-1958 was that the students should be instructed in the history that is not separated into Japanese history and world history, and teachers endeavored to realize that. Since 1970’s, however, the history field has gradually come to mean just the Japanese history. This is due to the fact that the world history contents were regarded as the background of the Japanese history. We should reconsider what history education is, or what the history education without the world history is.

研究分野：社会科教育

キーワード：中学校社会科歴史的分野　世界史教育　世界史内容　歴史教科書　自国史と世界史

１．研究開始当初の背景

中学校の歴史教育は日本史教育に限定されたものではない。しかし、中学校の生徒はおろか教師においても日本史を学んでいるという感覚が強い。

では、はじめからこのような状態であったのか、また、いつからこのような状態になったのか。そもそも世界史がない歴史教育ひいては社会科教育はありうるのであろうか。

このような問題意識から、中学校社会科の歴史教育における世界史内容がどのような変遷をたどってきたのかを可能な限り実証的に明らかにすることを目指した。

２．研究の目的

本研究の目的は、中学校社会科歴史的分野における世界史内容がいかなる意味と課題を持ったものであるかを歴史的に解明することにある。

このことは歴史という枠組みでの自国史と世界史の教育がいかなる意味と課題を持ったものであるかの検討と通じている。そのため、中学校社会科における世界史教育の充実のための基礎研究となるばかりでなく、現在検討が進められている高校での歴史基礎・歴史総合という科目の課題の提示ともなる。また、日本のみならず、歴史という枠組みで自国史と世界史の教育を実施している諸外国においても参考になるものと考える。

３．研究の方法

上記目的を達成するため、中学校社会科の発足時から現在までの学習指導要領、教科書、教育理論、授業実践等を対象として、その中の世界史に関わる内容の形成、発展、変容、現状等を分析する。

特に、教科書を中心として、その内容構成の変遷に注目する。同時にその教科書の背後にある学習指導要領等の制度的な枠組みの中の世界史内容の位置づけとの関連の推移を重視する。さらには、その時々の高校世界史教育の課題や歴史学研究の動向との相互関係にも注意しつつ、歴史教育の理論と実践にも焦点を当てていく。また、中学校で社会科教育に従事してきた人物に聞き取り調査を実施して、歴史教育史の情報として活用する。

このような方法により、中学校社会科歴史的分野における世界史内容の意味と課題を歴史的に明らかにすることを目指している。

４．研究成果

(1)中学校社会科における歴史教科書史の全体的な把握

中学校社会科で 1952 年度から 2015 年度までの 64 年間に使用されてきた歴史の検定教科書をその発行状況の調査から全体的な把握に努めた。

その結果、以下のことが確認された。①1952 年度から 2015 年度までにおいて 34 社 200 種 238 冊の歴史教科書が使用された。②その内、1962 年度使用以降の「歴史的分野」のものが 17 社 124 種 126 冊である。③一方、1961 年度使用までのものは、当初の「日本史」が 15 社 22 種 28 冊（文部省著作を除く）、その後の「歴史的内容を主とするもの」および「社会（乙）」が 24 社 54 種 84 冊であり、合計 27 社（重複を除く）76 種 112 冊である。④すなわち、64 年間の最初の 10 年間で歴史教科書の全種類数の 38%が発行されており、この時期に中学校社会科の歴史教科書の様々な試みが進められたことが指摘できる。

(2) 中学校社会科における歴史教育史の全体的な把握

1947 年に実施が開始された中学校社会科での約 70 年にわたる歴史教育をその制度の分析・整理を通して全体的な分析の枠組みの設定に努めた。

その結果、以下のことが確認された。①第一に、中学校社会科は総合的な内容の社会科と別枠で日本史（当初は国史と称した）が設定され、教科書・学習指導要領や授業研究も日本史として作成・検討が進められた時期がある。歴史的分野の前史に位置づけられる。②第二に、社会科解体をめぐり議論が進められて 1955 年版・1958 年版学習指導要領に帰着していく中で、日本史ではなく歴史的分野として歴史教育が設定されていく時期がある。多くの試みや提案がなされた歴史的分野の模索の時期と位置づけられる。③第三に、それ以後の現在まで、教科書も歴史的分野として発行がなされていく時期がある。歴史的分野の展開期に位置づけられる。ただし、授業時数や内容について見ると、特に世界史内容は大きく変化していく時期でもある。

(3)中学校社会科日本史（国史）における世界史内容

1947 年に始まった中学校社会科は別枠で国史（後に日本史と改称）が設定されており、後に別枠ではなくなったが、日本史教科書が使用されて授業が実施されていた。この時期における世界史内容の特徴の把握に努めた。

その結果、以下のことが確認された。①1952 年 4 月の検定教科書使用以前における日本史教科書については、文部省が戦後に発行した旧国定教科書の使用、文部省での中学校国史教科書編纂の挫折が先行研究により指摘されていたが、準教科書が全国的なもののみならず非常に地域的なものまで発行されていた。②この時期の中学校社会科日本史では、戦前の国史教育からの脱却が大きな論点として議論されており、それが 1951 年版学習指導要領での日本史に反映している。③日

本史という枠組みのため、世界史内容そのものは議論の中心ではないが、日本史の中の教材として検討されていた。④一方で、世界史教育としては認識されていないが、社会科教科書では世界史内容が重要な教材とされていた。この時期に社会科の中の世界史内容を別枠で取り扱う教育実践の試みも存在した。

(4)中学校社会科歴史的分野の模索期における世界史内容

1952 年から 1956 年に至る社会科をめぐる議論を経て 1956 年 2 月に 1955 年版学習指導要領が発行された。ここで従来の総合的な社会科に加え、分野別の社会科が登場して中学校社会科歴史的分野が始まる。この時期における世界史内容の特徴の把握に努めた。

その結果、以下のことが確認された。①中学校社会科歴史的分野の原点として、それまでの日本史のみの歴史教育への批判から日本史と世界史を分けない歴史教育が求められた点である。これは、高校での日本史と世界史に科目が分けられている歴史教育とは異なる新たな歴史教育を追求しようとしたものであったことが指摘できる。②文部省は 1955 年・1956 年の中間発表と学習指導要領で、教育行政として歴史の内容を提示した。ここでは日本史内容と世界史内容を完全に分離することなく 6 つの時代ごとに両者を取り上げつつ、日本史を説明するための世界史内容の選択が行なわれている。これが後の基本となる。③また、ここでの世界史内容には、当時までの高校世界史や歴史学研究で議論されながらも基盤となっていた西欧・北米の近代国家を戦後日本の目指すべきモデルと位置づけた歴史の枠組みが取り入れられ、さらには世界史授業・世界史教科書・世界史入試が紆余曲折を経ながらいわば一体化していく過程の特徴が反映していることが指摘できる。④あるべき歴史的分野の追求は、多くの理論的な検討や授業実践による検討の登場に表われている。基本として日本史と世界史を技術的にどのように組み合わせるかが議論され、この時期にあらゆる方法が提示されている。そのような中で、特に世界史を中学生が学ぶ意義を具体的な授業実践から検討した実践報告もあり、注目される。⑤加えて、非常に多くの種類が発行された教科書においても歴史的分野（歴史的内容）の模索が進められていた。この中には、日本史と世界史を完全に分けた構成も見られる一方で、日本の地理と歴史、世界の地理と歴史を組み合わせた構成などもあった。

(5)中学校社会科歴史的分野の展開期における世界史内容

官報告示となった 1958 年版学習指導要領を背景として歴史的分野として検定を受けた教科書が 1962 年度から使用された。そして 1969 年版学習指導要領による歴史的分野が歴史的分野のいわば完成版として 1970 年代に実施され、いくどかの学習指導要領の変遷を経て現在（2015 年度）に至っている。この時期における世界史内容の特徴の把握に努めた。

その結果、以下のことが確認された。①歴史的分野における世界史は「背景」という位置づけが 1969 年版学習指導要領でなされ、今日に至っている点が、世界史内容に大きな影響を及ぼしている。具体的には日本史の説明に必要と見なされた世界史内容のみが歴史教育の対象とされ、それが年を追うにしたがって強化され、1998 年版学習指導要領で頂点に達した。②そのため、世界史内容は社会科の授業時数の減少も相まって減少を続けることとなった。その意味で、歴史的分野はその展開において、いわば日本史化が進行している。この点を問題視して取り組まれた実践が継続されている。③ただし、世界史内容のすべてが同様に減少したのではなく、近代以前の日本史と関わる中国史を中心とした東アジア史、近代以後の日本史と関わる近代西洋史が比較的減少幅が少ないのと対照的に、その他の地域や時代の歴史は大幅に削減される結果となった。④以上の点を含めた歴史的分野の定型化が進行した。展開期の当初までは歴史的分野をどのように構成すべきかの議論が、世界史内容を含めて盛んに行なわれていたが、間もなく減少して現在に至っている。⑤教師にとっても中学校の歴史的分野の内容は日本史であると考えられるようになった一方で、歴史的分野における世界史教育のあり方の検討が継続されてきていることも注目される。

(6)中学校社会科歴史的分野における世界史内容に関する歴史的研究の意義と課題

本研究の意義と課題と述べる。本研究の意義としては以下のような点が挙げられる。①現行の 2008 年版学習指導要領では世界史が「背景」である点を残しつつも世界史内容の充実が強調された。この点は評価できるが、しかし、歴史的分野の歴史的展開から見ると、その充実は非常に限定的なものにとどまっており、根本的な再検討が必要であることが確認できる。②世界史内容を含めた、これからの歴史的分野のあり方を検討する際に、中学校社会科でのこれまでの取り組みが極めて重要な意味を持つことが確認された。③高校で取り組まれている日本史と世界史を融合した新科目の検討にとって、中学校社会科歴史的分野の歴史的な経緯をいかに批判的に受け継ぐかが、その成否を分けるものとなることが指摘できる。④日本の中学校社会科歴史的分野の歴史的展開は、同様に中等教育において歴史の枠組みでの自国史と世界史の教育に取り組んでいる東アジア諸国でも参考とすべきものである。

本研究の残された課題として以下のことが挙げられる。①研究の枠組みと概略は明示しえたが、いまだ詳細な考察に至っていない

部分が多く、実証的な歴史研究として完成していない。②中学校教育全般の動向、高校世界史の展開、歴史学研究の展開などとの関連に関わる考察が一部にとどまった。③授業実践の検討が一部に限定された。今後、以上のような課題にも取り組んでいきたい。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕（計 4 件）
①茨木智志、「世界史」大学入試問題の成立と展開に関する考察―1950 年前後の文部省による施策と授業への影響に焦点を当てて、歴史教育史研究、査読無、13 号、26－55
②茨木智志、「世界史」成立史研究の課題―小山幸伸論文への批判を通して―、歴史学研究、査読有、933 号、2015、49－55
③-1 茨木智志、「歴史」教育における自国史と世界史の課題―戦後日本の中学校社会科歴史的分野の成立と展開に焦点を当てて―、歴史教育史研究、査読無、12 号、2014、18－38、
http://hdl.handle.net/10513/00006969
③-2 茨木智志、「歴史」教育における自国史と世界史の課題―戦後日本の中学校社会科歴史的分野の成立と展開に焦点を当てて―（韓国語）、歴史教育論集、査読有、53 輯、3－34
④茨木智志、CIE 史料に残された「世界史」教科書の英語原稿について―1950 年実施の「世界史」教科書検定の経緯に対する検討、歴史教育史研究、査読無、11 号、64－79、
http://hdl.handle.net/10513/2343

以上の雑誌論文の他に、戦後の中学校等において社会科教師として歴史教育に携わってきた人物へのインタビューを実施し、その記録を公刊した。以下の通りである。

①茨木智志・大木匡尚・鈴木正弘、インタビュー記録　加藤文三先生、歴史教育史研究、査読無、13 号、2015、69－98
②茨木智志・志村喬・大木匡尚、インタビュー記録　村山和夫先生、歴史教育史研究、査読無、12 号、2014、61－86、
http://hdl.handle.net/10513/00006971
③鈴木正弘・茨木智志・大木匡尚、インタビュー記録　原田善治先生、歴史教育史研究、査読無、11 号、2013、80－98、
http://hdl.handle.net/10513/2344
（その他、雑誌論文等合計 10 件）

〔学会発表〕（計 3 件）
①茨木智志、世界史成立史研究の諸問題、歴史教育史研究会第 11 回例会、2015 年 10 月 31 日、東京都豊島区。
②茨木智志、世界史成立史研究のあり方、歴史教育史研究会、第 9 回例会、2013 年 9 月 21 日、東京都豊島区。
③茨木智志、社会科世界史を阻害したもの、総合歴史教育研究会第 48 回大会、2013 年 8 月 31 日、東京都新宿区。
（その他、学会発表、シンポジウム報告等合計 5 件）

〔図書〕（計 0 件）
戦後日本の世界史教育の変遷についての単著論文を掲載した図書（共著、英語）の発行が予定されている。

６．研究組織

研究代表者
茨木　智志（IBARAKI, Satoshi）
上越教育大学・大学院学校教育研究科・教授
研究者番号：30324023